2020年12月　15日　　No.194　　発行責任者　田中　孝史

かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶんかべしんぶんかべしん

第194号
郵政産業ユニオン
PIWU TOKYO

郵政産業労働者ユニオン東京地方本部
104-0031　東京都中央区京橋3－6－3
京橋通郵便局5F
TEL・FAX 03-3535-5447
piwutokyo@yahoo.co.jp

現場に混乱をもたらす指示

東京支社は情勢・問題を直視した方策の指示を

郵政ユニオンは今月初めに支部長会議を開催し、各支部からの報告と情報の交換を行いました。

情勢にあった指示を出すべき

○「当初春に予定されていたロッカー交換が延期され、第3波が来ているこの時期に行なわれた。実際のやり方は局任せで局によっては対応しきれていない。そもそもコロナが流行している間はロッカー交換を行うべきではない」

○「年末の短期組立ゆうメイトが配置されない。現状の労働力で賄えるのか不安が出ている。しかも、帰省自粛の関係で年賀の需要が増加しているのに短期ゼロはおかしい」

○「支社からの指示で他班の応援に誰でも回れるような調整がされた。これによって人員の大異動が行われ通区率が落ち、超勤、書留忘失も多発している」

このように支社から出される指示は、現場の実態に見合ったものではないこと、その指示が一層の混乱を招くものにもなっているのが分かります。

また、管理者による異常な行動が行われている局があることも報告されました。相次ぐ横領・不正事件と合わせ、管理者の資質が問われます。

割を食うのはいつも現場

支社から行われる指示は情勢・問題に合わせた内容でなければなりません。そのようになっていないところに問題があります。郵政ユニオンは今回の報告にふまえ、支社との交渉の場でも反映させ解決に向けて奮闘していきます。

会社は遺族に謝罪を

2010年 12 月 8 日に発生した埼玉新都心自死事件は管理者のパワハラによるものです。遺族が裁判に提訴すると和解協議となり、勝利和解が成立。その場で会社は「遺憾の意を」表したのです。その後、労災にも認められました。しかし、会社は遺族に謝罪していません。12 月 8 日、謝罪を求めて行動しました。

んぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶん・かべしんぶんかべしんぶんかべしんぶんか